

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2274200514		
法人名	有限会社ノアホームサポート		
事業所名	ケアホームのあ		
所在地 (電話番号)	静岡県駿河区下島261-1		(電話) 054-238-3280
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡県葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年11月13日		

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	73,500 円	
敷金	有() 円	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77.6 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡済生会総合病院 荻原病院 ナンバ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静岡市の南部、大浜海岸近くの閑静な住宅街にある。木造一階平屋建てのホームの内部は広々として、明るく見通しがよい造りになっている。ホーム開設以来運営に対する代表者の思いが熱く、職員が一体となって利用者や家族の希望に添う本人本位のサービスが展開されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題となった項目については、そのほとんどが改善への取り組みがみられる。今後も市担当者との連携や、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に向けて、より積極的な取組みを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義を理解して自己評価に取り組んだ。今回の評価が前回の評価をふり返るよい機会として前向きに捉えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、討議内容は回を重ねるごとに充実してきている。参加者のホームに対する理解も深まりつつあるが、参加メンバーの中に市の行政関係者の参加がないので、今後参加を呼び掛けて連携を深めていってほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3ヶ月に1回、家族会を開催している。なごやかな雰囲気づくりを工夫して、楽しい集まりの中から、家族の意見や要望・苦情等を把握して反映するように努めている。また玄関に意見箱を設置し、苦情処理が速やかにできるよう対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の奉仕作業や行事へ積極的に参加している。近隣の人たちには、犬の散歩の途中に立ち寄ってもらったり、隣り組の回覧板をまわしてもらう等、地域住民との交流も積極的に行っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と利用者が考えた「明るく、楽しく、和をもって」を理念として掲げ、その人らしい生活のサポートを心がけ、日々の支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議において、定期的に理念について話し合い、確認をしている。また、日々のミーティングや申し送りの中で具体的な支援について統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会へ加入し、隣り組の付き合いも行なっている。地域の清掃活動や行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んだ。前回の評価結果については会議で話し合い、日々のサービスに反映している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回のペースで開催している。会議の内容も、議題が明確に示され、参加メンバーから様々な意見をもらい、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護を受給している利用者があるので、その為の連絡は必要に応じて行なっているが、事業所の運営やサービス課題の相談や連携は行われていない。</p>	○	<p>行政担当者に事業所の考えや現場の事情等を積極的に伝える機会をつくり、サービスの質の向上に向けて共に取り組んでいかれることを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する「のあ通信」により、1ヶ月の様子を家族へ伝えている。金銭管理については、月2回金銭の出納状況を明示し報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3ヶ月に1回、家族会を開催して、家族が自由に意見交換できる場を設けている。玄関には意見箱を設置し、意見・要望・苦情をいつでも受けられるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>これまでの離職交代理由は、定年や結婚などであったが、なるべく利用者にダメージが無いように努めている。若い職員の離職を防ぐ為に社宅制度を設けている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望に応じて外部研修が受けられる。受講後は、研修内容を報告し、職員全体が共有し合う勉強会に活かしている</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年4回行われる地域包括支援センターの検討会に出席している。その際に、事業所の広報誌を配るなどネットワーク作りを進めているが、同業者同士の交流はあまりできていない。</p>	○	<p>今後も同業者同士の情報交換や研修会等交流の機会を作り、サービスの質の向上に向けて取り組んでほしい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、利用者や職員とお茶を飲みながら過ごす機会を設けている。また体験入所が可能であり、本人が馴染むのを見極めてからサービス利用の開始ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、洋裁、手芸等利用者から、教えてもらうことが多い。常に人生の先輩として様々なことを教えてもらうという姿勢を大切にしている。本当の家族のように喜怒哀楽を分かち合える関係を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの話をよく聞き意向の把握に努めている。意志疎通の困難な場合は、カンファレンスで検討し、支援の方法を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意志を尊重し、家族や関係スタッフの意見を聞いてプランを作成している。月1回のケアカンファレンスでは、本人が求める生活をいかに支えられるか、全職員で話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月に一度の見直しを行っているが、利用者に変化が見られた場合には、その都度話し合いの場を持ち見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を活かした柔軟なサービスの提供を心がけている。病院受診への付添いや、利用者の行きたい所への外出など要望に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援が行なわれている。週に1度かかりつけ医の往診があり、ホーム協力医との連携も図られ、適切な治療が受けられるようになっている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、医療面での不安があり職員間でも課題の一つになっている。今後更に検討を行なって、利用者や家族の思いに添った支援をしていきたいと考えている。	○	重度化や終末期に向けて、利用者や家族にとって何が必要か、事業所としてどのような支援ができるのか、職員間で話し合う機会を持ち対応方針の共有を図られたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけや利用者への接し方に注意し、特に排泄時の介助は自尊心を傷つけないように配慮している。家族に送付する「のあ通信」は、利用者や家族の了解を得て写真を掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人気持ちを尊重し、個別支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事当番表を作り、献立作りから調理・片付けと一連の仕事を無理強いせずに、職員と協力しながら行っている。食事を一日の大切な活動の一つとして、楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて、本人が希望する時間に入浴ができるように支援している。また、利用者のその日の希望も確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえそうな場面作りを心がけている。遠出外出やレクレーションを通して、楽しみや気分転換を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の体調の悪い日以外は、なるべく外へ出かけるようにしている。日常の外出以外にも食事会やドライブ、買い物等にも出かけ、利用者の急な外出希望にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底すること、また利用者一人ひとりの気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は鍵をかけない暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内の避難訓練は定期的に行い、運営推進会議を通して地域住民への協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記入して、職員が情報を共有している。水分摂取量が少ない利用者には飲み物を工夫して、摂取してもらうようにしている。	○	地域の栄養士や保健師などに、献立を点検してもらいアドバイスを受けることも検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂(居間)が一連の共用空間になっていて、明るくゆったりとした間取りになっている。畳の間も段差がないように工夫され、利用者の作品を飾るなど、居心地のよい空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具や家具が持ち込まれ、個性溢れる部屋作りがされている。		